

第 43 回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会 会長挨拶

本日ここに、第 43 回全国陸運労災防止大会を開催するに当たり、一言、ご挨拶を申し上げます。

皆様方には、ご多用中のところ、全国各地から多数のご参加をいただき、このように盛大に開催することができましたことを、まずもって、厚く御礼申し上げます。

ご参加の皆様方の労働災害防止に寄せる、並々ならぬ思いに接し、主催者として非常に心強く、敬意を表する次第であります。

また、本大会には、

厚生労働省労働基準局 鶴田 安全衛生部長

国土交通省中部運輸局 中田 局長

警察庁中部管区警察局 花岡 広域調整部長

そして地元愛知県から、産業労働部 青木 労政担当局長をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜りましたことを誠に光栄に存じ、厚く御礼を申し上げます。

また、本日は、労働災害の防止に顕著な功績をあげた事業場、団体並びに個人の方々への表彰を行います。受賞されます皆様方には、これまでのたゆまぬご努力、ご精進に対し、深く敬意を表しますとともに、今後益々のご活躍を祈念申し上げます。

さて、昨年、平成 18 年における陸運業の労働災害の発生状況について申し上げますと、関係各位の真摯な労働災害防止活動の結果、死亡者数はその前年より 47 人減少し、198 人となったと

ころであります。死傷者数につきましては、依然として、13,000人台半ばに上っております。

また、本年、平成19年について申し上げますと、死亡者数は9月末現在で140人、死傷者数は8月末現在で、6,004人であり、死亡者数については前年同期を上回っているという、誠に憂慮すべき状況となっております。

労働災害防止につきましては、当協会では、平成15年度から平成19年度までの「陸運労災防止5カ年計画」を策定し、労働災害による死亡者数が年間200人を下回ることを目指すとともに、計画期間中の労働災害総件数を20%以上減少させることを目標に掲げているところであり、本年度がこの計画の最終年度であります。

このため本年度は、従来にも増して、「経営首脳が先頭に立った安全衛生活動の積極的な推進」を図るとともに、「交通労働災害の防止」、「荷役運搬作業の安全の確保」を主要対策として、会員事業場の皆様方と一緒に、積極的な労働災害防止活動の取組を展開しているところであります。

陸運業界は、物流ニーズの多様化が進む中で、運賃水準の低迷に加え、軽油価格の高騰や環境問題への対応、さらには、物流効率化対策、規制緩和対策等様々な課題が山積し、厳しい経営環境にあります。

こうした環境を踏まえつつも、労働災害を防止し、働く人々の安全と健康を確保していくことは、時代を問わず基本中の基本であり、陸運業の発展のために業界をあげて取り組まなければなら

ない最重要課題であります。

先ほど申し上げました「陸運労災防止5カ年計画」も残すところわずかの期間となっておりますが、本大会は、今後の期間の労働災害防止活動の取組について、総力を挙げ、気持ちを高め、決意を固める大切な機会であります。

本大会を契機として、これまで以上に充実した実効ある労働災害防止活動を展開されますようお願い申し上げる次第であります。

最後に、本大会開催に大変ご尽力をいただきました愛知県支部を始め、関係者の方々に厚く御礼申し上げますとともに、本大会にご参加の皆様方の益々のご健勝とご活躍、さらには、陸運業界の発展を心から祈念し、私の挨拶といたします。

平成19年11月14日

陸運労災防止協会会長

岡部 正彦